

# 中央区内景气动向调查

平成 28 年 6 月調査結果

平成 28 年 7 月 22 日

中央区

## 総 括

### 平成 28 年 6 月の動き

中央区内における 6 月の現状判断 D I は合計で 40.5 と、前回調査から 3.5 ポイント低下している。景気の先行き判断 D I は合計で 46.5 と前回調査と変わらず横ばいである。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

( D I )	平成28年			前回調査 からの変化
	2月	4月	6月	
合計				
現状判断 D I	42.5	44.0	40.5	( -3.5 )
先行き判断 D I	46.0	46.5	46.5	( 0.0 )

## 目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

## 調査の概要

### 1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

### 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

### 4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 28 年 6 月調査の調査票発送は 6 月 9 日（木）、回答期限は 6 月 17 日（金）である。

### 5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

### 6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 50 名、有効回答率は 100.0%であった。

### 7 DI の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

# 1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で40.5と、前回調査から3.5ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは39.0と、前回調査から3.0ポイント低下し、企業動向関連DIは42.0と、前回調査から4.0ポイント低下している。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が6.0ポイント減少し、「悪くなっている」と回答した人の割合は4.0ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

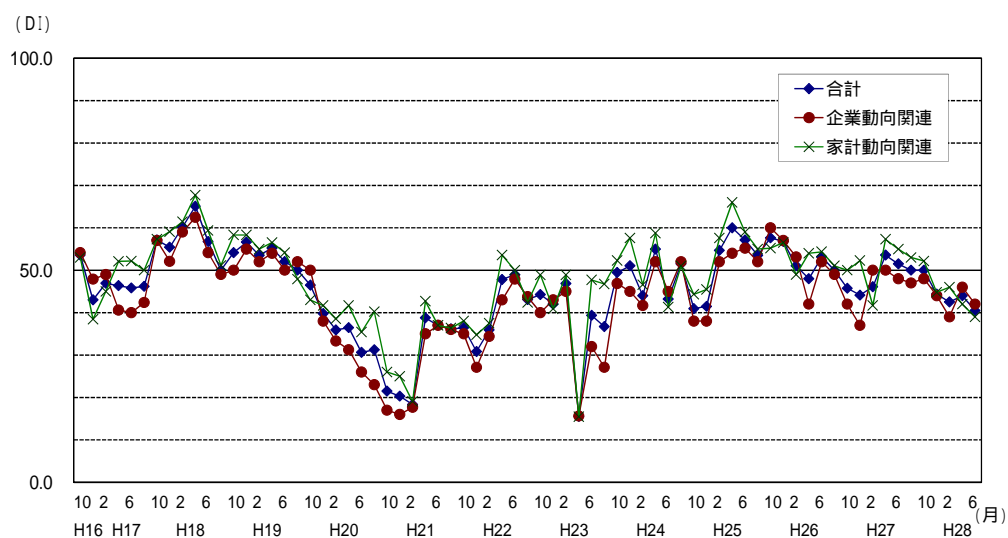
(DI)	平成28年			
	2月	4月	6月	(変化幅)
合計	42.5	44.0	40.5	(-3.5)
家計動向関連	46.0	42.0	39.0	(-3.0)
小売関連	38.5	30.8	30.8	(0.0)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	53.6	53.6	50.0	(-3.6)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	39.0	46.0	42.0	(-4.0)
製造業	29.2	45.8	37.5	(-8.3)
非製造業	42.1	46.1	43.4	(-2.7)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成28年	2	0.0%	16.0%	46.0%	30.0%	8.0%
	4	0.0%	20.0%	42.0%	32.0%	6.0%
	6	0.0%	14.0%	44.0%	32.0%	10.0%
(変化幅)		(0.0)	(-6.0)	(2.0)	(0.0)	(4.0)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



## 2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で46.5と前回調査と変わらず横ばいである。分野別にみると、家計動向関連DIは46.0と、前回調査から3.0ポイント低下し、企業動向関連DIは47.0と、前回調査から3.0ポイント上昇している。構成比では、「良くなる」、「やや悪くなる」と回答した人の割合が4.0ポイント増加し、「やや良くなる」、「変わらない」と回答した人の割合が4.0ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

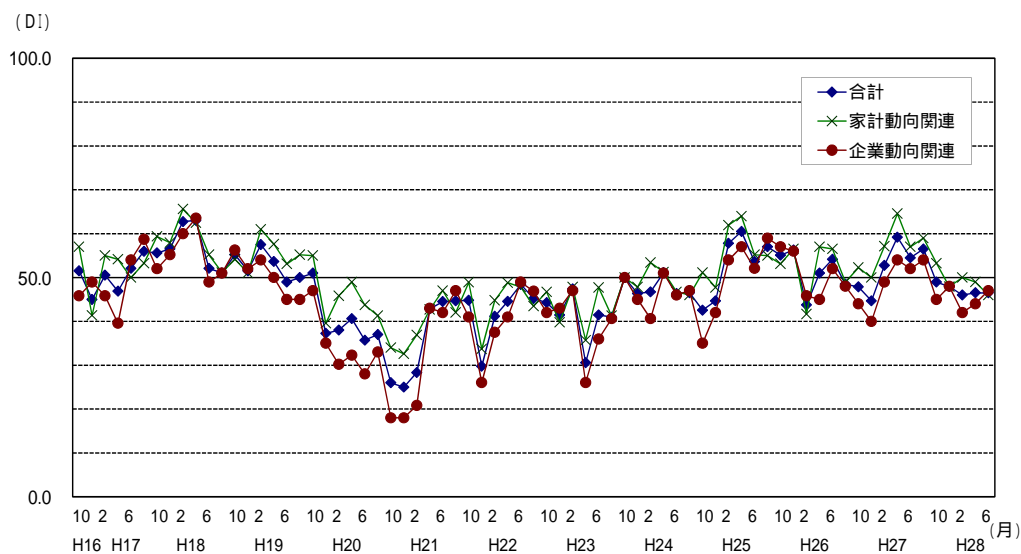
(DI)	平成28年			
	2月	4月	6月	(変化幅)
合計	46.0	46.5	46.5	(0.0)
家計動向関連	50.0	49.0	46.0	(-3.0)
小売関連	44.2	44.2	38.5	(-5.7)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	57.1	50.0	57.1	(7.1)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	42.0	44.0	47.0	(3.0)
製造業	33.3	33.3	50.0	(16.7)
非製造業	44.7	47.4	46.1	(-1.3)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成28年	2	0.0%	26.0%	42.0%	22.0%	10.0%
	4	0.0%	20.0%	52.0%	22.0%	6.0%
	6	4.0%	16.0%	48.0%	26.0%	6.0%
(変化幅)		(4.0)	(-4.0)	(-4.0)	(4.0)	(0.0)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



### 3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

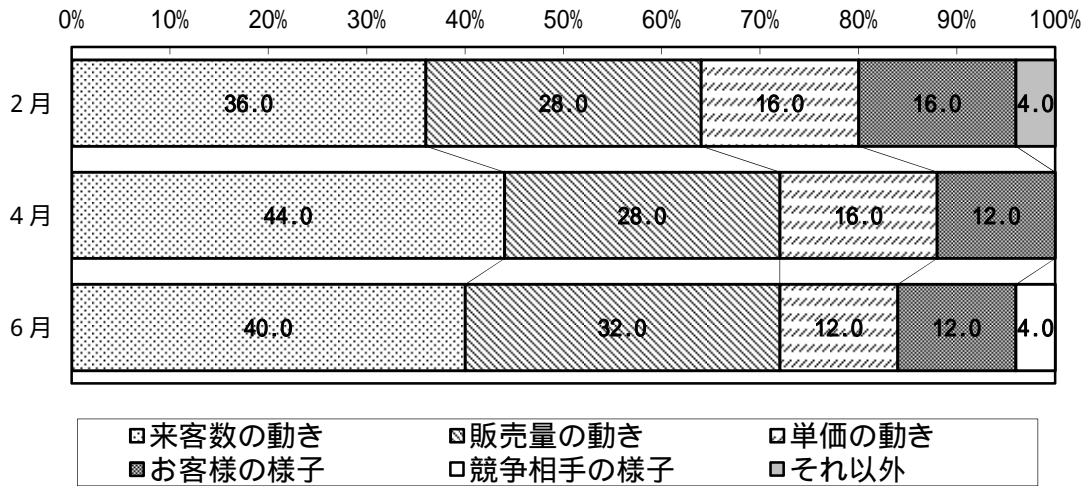
(D I)	平成28年		
	2月	4月	6月
合計	43.0	43.5	41.5
家計動向関連	45.0	40.0	39.0
小売関連	38.5	30.8	25.0
飲食関連	-	-	-
サービス関連	53.6	57.1	60.7
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	41.0	47.0	44.0
製造業	29.2	45.8	45.8
非製造業	44.7	47.4	43.4

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

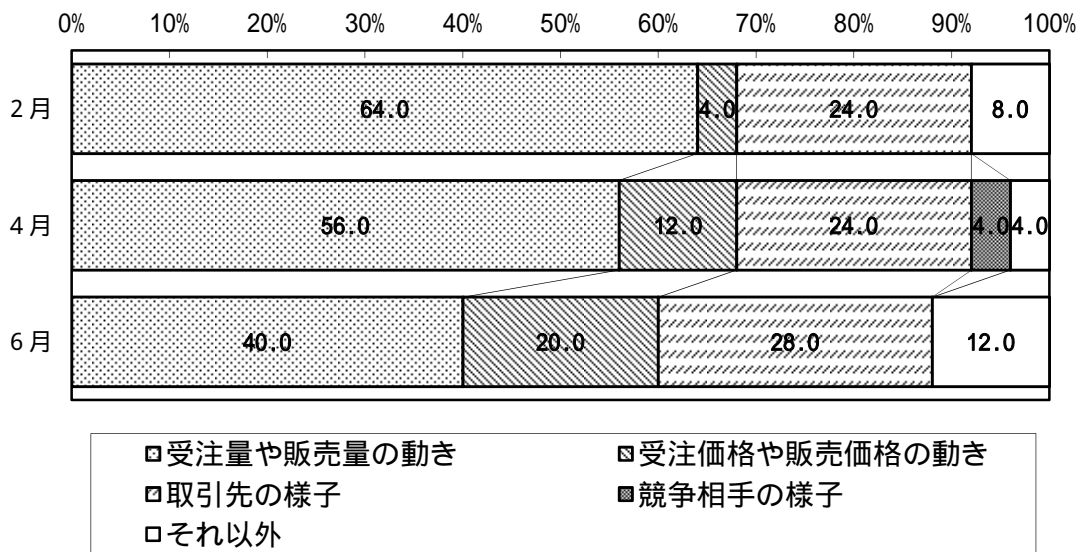
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

## 4 (1) 景気の状態に対する判断理由着目点

### 家計動向関連



### 企業動向関連



注) 本グラフは景気の状態に対する判断理由着目点の構成比を示している。  
割合が0%の場合、数値は表記していない。



## 4 (2) 景気の現状に対する判断理由

( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなる	-	-	-
	やや良くなっている	スーパー（店長）	単価の動き	・買上点数はほぼ変わらないものの、一品単価が上がっている。また、外国人観光客も増加している。
		衣料品専門店（店長）	競争相手の様子	・当店の売上は非常に厳しいが、前年比では上昇傾向にある。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今の時期は修学旅行生や学生、それに観光客の客が普通の月より多く来店するので忙しいと思う。
	変わらない	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・婦人雑貨、宝飾品、食料品の売上は順調に推移しているが、紳士服、婦人服などは伸び悩んでいる。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・夏季は例年閑散期になるが、今年は比較的予約状況が良い。特にインバウンドの来客数が増加している。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・現在のところ外国人観光客が多く、追い風が吹いているが、ホテル業界への新規参入が多く、限られたパイの奪い合いとなっている。安心安全というイメージで訪日していると思うが、いったん不安定となった場合、必ずしも右肩上がりとは言えない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・春の移動シーズンは終わったが、主要商品の販売数にはさほど変化が見られない。
		その他レジャー施設（経営者）	来客数の動き	・昨春に一段と悪くなり、それが現在まで続いている。今はそれ以上悪くもならなければ、良くなる兆しも見えないので、今年も変わらない。
		やや悪くなっている	一般小売店〔文具〕（販売担当）	来客数の動き
	百貨店（総務担当）		販売量の動き	・国内外の客を問わず、消費マインドは足踏み状態である。
	百貨店（広報担当）		お客様の様子	・買物の際に慎重に吟味する姿が多い印象である。
	スーパー（店長代行）		販売量の動き	・今月の来客数は前年比97%であるのに対し、買上点数は前年比95.5%とやや落ち込んでいる。
	コンビニ（店長）		来客数の動き	・例年この時期は気温の上昇やボーナス支給に伴い来客数が伸びる時期であるが、その伸びが鈍く、天候によっては予想外に売上減となる日がある。
	衣料品専門店（店長）		来客数の動き	・来客数が前年比90%である。今までは国内客が減少し訪日客が大幅に伸びる傾向だったが、訪日外国人客数、買上額共に前年より減少し、売上も厳しい。
悪くなっている	一般小売店〔食品〕（店長）		お客様の様子	・ゴールデンウィーク明けから極端に客単価が落ち、来客数もやや減っている。6月現在も良くない。
企業 動向 関連	良くなる	-	-	-
	やや良くなっている	建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・見積件数が多く、受注しても人手不足気味になっている。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	それ以外	・築地場外市場へのインバウンドの影響が大きい。
	変わらない	出版業（営業担当）	それ以外	・ボーナス時期になったが、中小企業では増えたという実感は全くない。
		印刷業・製本業（営業担当）	取引先の様子	・同業者間の景気の状況は西高東低のようである。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年同月に比し、受注量、売上数に変化が少ない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・景気良化の声を聞くことはほとんどない。収益が悪くない企業もコスト抑制が軸である。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・春先の受注残が少なかったため、売上が伸びない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・デフレから脱却しきれていないのか、高額商品の売行きが落ちている。
	やや悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・富めるものはタックスヘイブンへ、貧しいものは生活保護へという二極化が進む。
印刷業・製本業（営業担当）		取引先の様子	・販売額だけを見るとそれほど悪くはないのだが、かなりの偏りがある。良い取引先は前年同様の動きがあるが、悪い取引先はゼロに近い状況である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が10%ほど減少している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・取引先企業の設備投資に足踏みが感じられる。
	悪く なっている	卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・来客数が少ない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	取引先の様子	・取引先の話によると、受注量がかなり減少している。

#### 4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	スーパー（店長） 通信会社（営業担当）	・外国人観光客が引き続き好調である。インバウンド対応として、外国語表記を実施している。 ・ボーナス消費により、販売量が増加すると考えられる。消費税増税が先送りになったことから、家計を切り詰められる不安要素がひとまずなくなっている。
	変わらない	一般小売店〔文具〕（販売担当）	・良くなる要素がない。ボーナス商戦も不安である。
		一般小売店〔食品〕（店長）	・現在の状況が継続すると思うが、国際経済の動きに影響される日本経済の動向によっては、やや悪くなる雰囲気もうかがえる。
		百貨店（総務担当）	・消費税増税は延期されたものの、必要な物以外売れる心配がない。急速に悪化している海外の客も同様である。
		百貨店（総務担当）	・見通しについては、若干の懸念要因も見受けられるため、引き続き注視が必要である。
		百貨店（業務推進担当）	・良くなる要因がないので変わらない。
		百貨店（広報担当）	・消費税の増税延期発表後も大きな変化に乏しく、選挙も控えており、しばらくはこのままの顧客心理が続くそうである。
		スーパー（店長代行）	・無駄な買物をしない状況は今後も続くと思われ、景気が回復する要因が見つからない。
		高級レストラン（経営者）	・外国人観光客の増加に伴い来客数は増加しているが、客単価は下がっている。邦人企業の接待は増加しているが、一部の回転率は悪くなっている。
		高級レストラン（副店長）	・夏になると客足が鈍くなる。今年の夏の暑さも来客数に影響してくる。
		一般レストラン（経営者）	・梅雨に入ると来客数は少なくなる。また7～8月の夏休みになると観光客が多くなると思うので、トータルすれば変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・来客の多くが観光目的のため、客とならない。この状況は今後も変わらない。
		都市型ホテル（経営者）	・円高傾向になると、やはり観光には響いてくる。
		通信会社（営業担当）	・夏の参議院選が終わり、政府が引き続き景気の底上げを本腰を入れて実施しないと何も変わらない。
		競馬場（職員）	・全体の売上傾向はやや上向いているが、先行きは不透明である。
	その他レジャー施設（経営者）	・季節によって多少の変化はあっても、一年を通して平均的には変わりはない。	
	設計事務所（所長）	・今後の良くなる材料が全くないので、現状と変わらない。	
	やや悪くなる	コンビニ（店長）	・好転する要素が見受けられない。むしろ築地市場移転は、場所的に当店よりやや距離があるものの、何らかの売上減少につながるだろう。
		衣料品専門店（店長）	・外国人観光客が減少傾向にある。温暖化により夏季が長く、秋の立ち上がりに遅れが出てくる。
悪くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・消費税の据え置きで、より貯蓄に回る。	
	一般小売店〔靴〕（店長）	・円高、株安、消費税増税の見送りや、知事の不正問題のため、政治不信が深まる。	
企業 動向 関連	良くなる	印刷業・製本業（営業担当）	・まとまった物件があるので一時的に良くなるが、これがなかったらかなり悪くなっている。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・6～10月にかけて、植木管理の仕事が増えてくるので、今よりは必ず良くなる。
	やや良くなる	新聞業（営業担当）	・参議院選の政党広告等関連出稿が見込める。リオデジャネイロオリンピックの開催前、期間中に、オリンピックスポンサー企業他関連企業の出稿が増える可能性もある。夏のボーナス商戦にも期待したいが、個人消費には力強さは感じられない。オリンピック後の反動も懸念される。
		建設業（営業担当）	・規模は大小あるが、仕事量は多い。
		輸送業（従業員）	・得意先、客からの引き合いが増えてきている。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・予定していた物件が徐々に決まり始め、2～3か月後の納入になるため、良くなる傾向にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	印刷業・製本業（営業担当）	・季節的に休みが多いので、企業間の取引は少ない。個人消費に期待したい。参議院選の行方にも注目したい。
		建設業（営業担当）	・受注量が伸びてこない。
		不動産業（企画担当）	・ビル空室率底打ち感が継続している。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・通常6～8月は悪い時期なので、今月とそれほど変わらない。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・築地場外市場はもう飽和状態である。
	やや悪くなる	卸売業〔機械器具〕（従業員）	・厳しい受注環境が大きく好転する要素はない。徐々に上昇するコストをしっかりと抑え、受注量の確保を目指す。
		出版業（経営者）	・アベノミクスもその最たるものだが、投資優先の経済再生策はもう時代遅れなのではないか。
		出版業（営業担当）	・円高、株安の傾向が続き、景気の上昇は見込めず、家計のひもは緩まない。出版物の購買意欲は上がらない。
		印刷業・製本業（経営者）	・アベノミクスも息切れかと思わせる円高、株安の景気では、発注が増える要素がない。企業の販促活動が活性化しないので、身の回りの景気は悪くなる方向になる。
		建設業（経営者）	・イギリスのEU離脱をかけた国民投票の結果次第で、世界経済に多大な影響を及ぼし、日本もすぐに巻き込まれる。
	通信業（営業担当）	・先行きが明るくないため、各企業の投資に先送りが見られる。	
	通信業（営業担当）	・内需が拡大しない以上、サービス業は特に厳しい声が多い。	
	金融業〔証券〕（営業担当）	・円高の道行は大きく、6月23日のイギリスのEU離脱をかけた国民投票の結果も大きなリスクと考える。重ねて、消費税率の引き上げ見送りによる日本のクレジットの低下は、目先ではないにしても相応の下方バイアスとなり得る。いずれにしても、ここ3か月で見た場合に、これといった切り返すイベントは思い当たらない。	
	金融業〔証券〕（営業担当）	・当社の営業活動は円高に大きく左右され、保有している有価証券の評価損が増えると商いが進まなくなる。	
	経営コンサルタント	・消費税を上げたら上げたで消費が一時的に停滞するが、延期したらしたで様子見の消費者が多い。	
	悪くなる	卸売業〔機械器具〕（経営者）	・悪い情報が増えてきている。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)	
合計		50	
家計動向関連	家計動向関連	25	
	小売関連	13	
	商店街・一般小売店	4	
	商店街代表者	0	
	一般小売店経営者・店員	4	
	百貨店	4	
	百貨店売場主任・担当者	4	
	スーパー	2	
	スーパー店長・店員	2	
	コンビニエンスストア	1	
	コンビニエリア担当・店長	1	
	衣料品専門店	2	
	衣料品専門店経営者・店員	2	
	家電量販店	0	
	家電量販店経営者・店員	0	
	乗用車・自動車備品販売店	0	
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0	
	その他小売店	0	
	住関連専門店経営者・店員	0	
	その他専門店経営者・店員	0	
	その他小売の動向を把握できる者	0	
	飲食関連	4	
	高級レストラン経営者・スタッフ	2	
	一般レストラン経営者・スタッフ	2	
	スナック経営者	0	
	その他飲食の動向を把握できる者	0	
	サービス関連	7	
	旅行・交通関連	3	
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0	
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2	
	旅行代理店経営者・従業員	1	
	タクシー運転手	0	
	通信会社	2	
	通信会社社員	2	
	レジャー施設関連	2	
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0	
	ゴルフ場経営者・従業員	0	
	パチンコ店経営者・従業員	0	
	競輪・競馬・競艇場職員	1	
	その他レジャー施設職員	1	
	その他サービス	0	
	美容室経営者・従業員	0	
	その他サービスの動向を把握できる者	0	
	住宅関連	1	
	設計事務所所長・職員	1	
	住宅販売会社経営者・従業員	0	
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0	
	その他家計の動向を把握できる者	0	
	企業動向関連	企業動向関連	25
		農林水産業従業者	0
		鉱業経営者・従業員	0
		製造業経営者・従業員	6
		食料品製造業	0
繊維工業		0	
家具及び木材木製品製造業		0	
パルプ・紙・紙加工品製造業		0	
出版・印刷・同関連産業		6	
新聞業		1	
出版業		2	
印刷業・製本業		3	
その他出版・印刷・同関連産業		0	
化学工業		0	
石油製品・石炭製品製造業		0	
プラスチック製品製造業		0	
窯業・土石製品製造業		0	
鉄鋼業		0	
非鉄金属製造業		0	
金属製品製造業		0	
一般機械器具製造業		0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)		0	
輸送用機械器具製造業		0	
その他製造業		0	
非製造業経営者・従業員		19	
建設業		3	
輸送業		1	
通信業		2	
金融業		2	
不動産業		1	
卸売業		6	
繊維・衣服等		2	
飲食品		1	
建築材料・鉱物・金属材料等		0	
機械器具		3	
その他卸売業		0	
サービス業		4	
広告代理店・新聞販売店[広告]		0	
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等		1	
コピーサービス業		0	
その他サービス業	3		
その他非製造業	0		
その他企業の動向を把握できる者	0		